

I まず神の恵み、神の恵みでどのようにされているかを覚え感謝する。

「あなたがたの間では、聖徒にふさわしく」：3。

滅んで当然の罪人である私達が、神の一方的恵みで「聖徒」とされた事を感謝したい。

「聖徒」＝神に愛されている者・神に罪を赦された者・神によってこの世から取り分けられ、聖別された者・愛と聖さに満ちたキリスト者・聖霊が心に住んでおられる者・神に習う者・神の愛のうちに歩む者。

II 神に愛され聖別された聖徒として。

1. 「口にすることさえいけません」：3。

口の言葉は、想像力や影響力を与える。「不品行」：不道德な性関係。

「不品行を避けなさい（近づかない）。…不品行を行う者は、自分のからだ（神から与えられた）に対して罪を犯すのです。あなたがたのからだは、あなたがたのうちに住まれる、神から受けた聖霊の宮（聖い聖霊が住んで下さるところ）であり、あなたがたは、もはや自分自身のものではないことを、知らないのですか。あなたがたは、代価（罪のない主の十字架の血、命）を払って買い取られた（滅びから買い取られた、神のものとされた大切な体）のです。ですから自分のからだ（神のものとされたからだ）をもって、神の栄光（神の御性質、神の素晴らしさ）を現わしなさい」（I コリント6：18－20）。

「どんな汚れも」。汚れ：不潔、不道德。

対処する御言葉＝「御霊によって（御霊に拠り頼んで）歩みなさい。そうすれば、決して肉の欲望を満足させるようなことはありません」（ガラテヤ5：16）。

「またむさぼりも」。むさぼり：貪欲、欲が深い。受けても受けても満足せず欲しがる心。神に与えられているもので満足せず、感謝の心がない。

むさぼりに対処する御言葉＝「金銭を愛する生活をしてはいけません。いま持っているもので満足しなさい。主ご自身（すべての必要の与え主）がこう言われるのです。「わたしは決してあなたを離れず、また、あなたを捨てない」（ヘブル13：5）。

「口にすることさえいけません」。罪は行いだけではなく、心、想像、思いと言葉で始まっている。言葉くらいと軽く捉えてはいけない。不品行、汚れ、むさぼりの言葉は、その場を、自分と人々を悪に染める。「口にする」という言葉は、「名づける、名を称える」の意。主に救われた私達の口は、主の名を称える、呼ぶ、賛美する口である。聖なる主の名を呼ぶ口で、その同じ口で不品行、汚れ、むさぼりを口にするのは相応しくない。

「主の名を呼ぶ（「口にする」と同じ原語）者は、だれでも不義（神の喜ばれない悪）を離れよ」（II テモテ2：19）。

2. 避けるべきもの。

「また、みだらなことや」。みだらなこと：見苦しさ、いやらしさ、下品、卑猥。私達の中におられる主は、愛と聖い品性のある方。

「愚かな話」：馬鹿話、くだらないおしゃべり。

私たちの中におられる主の喜ばれる事＝「必要なとき、人の徳を養うのに役立つことばを話し、聞く人に恵みを与えなさい」（エペソ4：29）。

「下品な冗談」：下品なおどけ。※「下品」とある。下品とあり、冗談、ユーモアは否定されていない。キリスト者の交わりは、主を中心とした聖さと同時に愛ある暖かい、和む交わり。肩の凝るような堅苦しい交わりではない。ユーモアのある和ませる交わりは幸い。私達と共におられる主は聖い方であり、また、愛に満ちた和ませる方。※「らくだが針の穴を」というユーモアは弟子達の笑いを誘ったことだろう（「イエスの生涯」

Ⅲ 主にある聖徒の人生は、悪い事を避けると言う消極面だけではなく、主にある新しい命に生かされる積極面のある人生。「むしろ」：しかし、むしろ、もっと、更に、一層、ますます、かえって。

むしろ「感謝しなさい」の原語：有り難く思いなさい、感謝の言葉を述べなさい、礼を言いなさい。神から与えられた口を不品行な事、愚かな話に用いるのではなく、むしろ、感謝する事に用いなさい。神への感謝は、私たちを聖め、貪欲を追い出す。「むしろ、感謝しなさい」の御言葉を私達が本気で日々、実践するならどんなに人生が豊かになるだろう。感謝の言葉こそ、聖徒にふさわしいもの。みだらな事、不平不満に人生を費やすか、むしろ感謝する事を選ぶかで人生は大きく変わる！ 不平不満は、自然に出て来るが、感謝は意識すべき。主の恵みを数え、書き記す事は恵み。

1. 神に、毎日、事ある毎に感謝したい。何一つ当然な事はなく、有り難く思い、感謝の気持ちを祈りでお伝えしたい。食べ物、着る物、住まい、命、こんな罪と欠点の多い私を愛されている事、罪の赦し、永遠の命（神と永遠に交われる命）、日々共にいて下さる恵みを感謝したい。
2. 夫、妻、子供、家族一人一人に、つらくあたるのではなく、感謝の言葉を具体的に述べたい。愛は、愛しているつもりではなく、愛が、伝わっているかが大切！ 仕事、家事、贈り物を感謝。当然ではない。
3. 神が招かれた神の家族、教会の一人一人への感謝。神が愛されている一人一人の存在を感謝。祈られている事を感謝。一人一人への奉仕の感謝。
「キリストの平和が、あなたがたの心を支配するようにしなさい。そのためにこそあなたがたも召されて一体となったのです。また、感謝の心を持つ人になりなさい」コロサイ 3：15。
4. 隣人への感謝。感謝は、神を喜ばせ、人を励まし、生かし、自分自身にも喜びと信仰の成長が与えられ、人々への良き証しとなる。

祈り：不品行、汚れ、むさぼり、みだらなこと、愚かな話しを避け、むしろ、感謝する事ができますように。その為に、私たちの心と口を聖めて下さい。心の王座に主よ、お座りください。